

## 第4回関西学連臨時総会

日時 : 2022年7月21日

場所 : zoom

出席者 (敬称略)

: 高野・池田・張・丸田・吉岡・近藤・塩谷・林牧穂・徳力・谷川・坂本・箕浦・菅・林里美 (阪大部長)・鯉江 (神大部長)・小早川 (奈良女部長)

文責 : 近藤、徳力

議題 ロングセレクションの成立について

高野 : まず、京京立でコロナによって参加できない人はいるか？

吉岡 : 個人でコロナにかかっている、クラスターではないので、個人で対応するべきだ

高野 ; それなら個人で対応してもらおう。

高野 : 今日の臨時委員会の決定事項は、諮問委委員会に提出し、決めていただく。

現状を各大学部長に説明してもらおう。

林 : 現在、陽性者2名、その2人は夏の合宿中に宿泊所に宿泊しているので、部内に濃厚接触者がいる。そのため合宿参加者にセレを自粛してもらおう。

高野 : 夏合宿者はロングセレに参加しないでもらう前提で話を進める。

鯉江 : 神大の選手がコロナになっている。神大は大学の規則に則り、活動を休止する。ロングセレも不参加とする。

高野 : 奈良女も阪大と一緒だ。

高野 ; 今日の議題はロングセレの扱いだ。セレクション (以下セレ) として扱うか、一部利用するか、利用しないかだ。

高野 : 去年の関西学連の基準に従うと、参加しない大学がある場合不成立であり、今回は神戸大学が参加しないので不成立となる。東海学連の基準では、地元からの要請無い場合、参加可能な大学のみでセレを行うとなっている。今回は地元からの要請は無い。この前例に従うか、新しい規約を決めてもよい。

小早川 : 自分は一部セレとして扱うことを提案する。阪神奈の人は推薦という選択肢を残すことで不満を減らすことができるだろう。

吉岡 : このまま、セレを中止すると反発が起こるので、セレとして認める。その代わりに、推薦枠を増やすのがいいだろう。

高野 ; 他に意見が無ければ、一部セレとして扱うことを認める。

高野 : 次に、ロングセレでどの程度セレとして扱うかを考える。具体的には、セレ通過者の枠の数だ。東海学連の前例に従うと、枠配分に関して計算式が存在する。(添

付されている資料に記載)これを使って計算すると、男子は阪大、神大に2枠ずつ、京大に4枠となる。ただ、京大はセレに参加できるので、阪大神大に2枠ずつ推薦を増やし、セレ通過者の枠を4つ減らす。また、阪大は合宿に参加していない3名の分の枠を考慮する必要がある。女子は、神大京大が1.5枠ずつ、そのうち小数点以下が大きい方が多く枠を取るが、今回は同じなので問題が残る。

- 高野 : まず、東海学連の計算式に従うかどうかを決める。
- 吉岡 : セレの枠の内、半分を推薦に使うのは抵抗感がある。
- 高野 : これは東海の基準を適用しているにすぎないので、関西の基準を考えてもよい。
- 吉岡 : 単純に、全体の推薦枠を増やせばいいのではないか？
- 高野 : それでもいい。
- 丸田 : 式の中の基準では、1回生が反映されないのではないか。
- 高野 : 例年、前年度の成績によって決まるのであり、その枠を1回生が取得してもよい。
- 丸田 : 今、推薦する人を決めるのだろうか？
- 高野 : 今決めるわけではない。
- 林牧穂 : 増やす予定の推薦枠はロングセレに参加していない人も、参加できるのだろうか？
- 丸田 : セレに参加できない人のための措置なので、セレ参加予定者とセレ不参加者で枠を分ければいいのではないか。
- 林牧穂 : それがセレに出られない人への救済処置として適当だろう。
- 徳力 : 増やす予定の枠はセレクションの参加予定者に与えるべきで、もともとの推薦枠は自由に与えるべきだろう。
- 高野 : 東海学連の基準があまり関西学連に適応しにくいいため、関西学連の新基準を決める。主に、推薦枠の数だ。現状、もともとの推薦枠1つを加えて、男子は9枠、女子は4枠だ。
- 吉岡 : 元の推薦枠を除いた内の半分を推薦に回すのは直感的に違和感がある。なので、公平な諮問委員会に数を決めてもらうのはどうだろうか？
- 徳力 : この場で決めてもいいし、諮問委員会に任せてもいい。
- 林牧穂 : 東海学園の計算式よりも、参加予定者で、参加者を割りその数を使うのはどうだろうか？
- 高野 : それだと、数字が偏りそうだ。
- 林牧穂 : だが、今後にも適応できなければならない。そのために基準が必要だ。
- 吉岡 : 東海学連のものは踏襲されているものなのか？
- 徳力 : 東海の基準は去年使ったものだ。
- 吉岡 : コロナ特例処置にはできないのか？
- 徳力 : それは難しい。今回限りだとは思う。ただどうしても、前例として参考にするだ

ろう。

- 近藤 : 諮問委員会にすべて任せるのはどうだろうか？
- 徳力 : 可能かもしれないが、明日、すぐに決められるか分からない。
- 吉岡 : しかし、ここでは利害関係が入ってきてしまう。
- 徳力 : だが、本来は関西学連が決めるべきことだ。
- 高野 : 話はズれるが、個人でコロナにかかり、参加できなかった人の対応はどうする？
- 吉岡 : 明日、濃厚接触者になる可能性がある。それ故に、計算式を決め、今の数で計算するのは問題だ。
- 鯉江 : 陸上などのように、参考記録などを基準に決めるのはどうだろうか？ある一定以上の人を通過させるように？
- 高野 : オリエンは時間に差が出るから難しい。
- 丸田 : そもそもだが、式を決めるとするのは、推薦枠の数を決めるもので正しいだろうか？
- 高野 : そうだ。
- 徳力 : 今のところ、6:3 や 2:2 に分けるのが納得しやすい数だ。ただ、根拠がない。計算式を作った方が論理的だ。
- 吉岡 : あえて計算式を作らないことで来年踏襲させないようにするのはどうだろうか？
- 徳力 : 半分で数字を切るよりは納得できる数字だが、やはり根拠がない。今現在の参加可能な者と不可能な者の人数比はどのくらいだろうか？
- 高野 : 男子は 30 : 17 くらいで、女子は 1:1 くらいだ。
- 徳力 : 参加できる人と参加できない人の比をセレと推薦の枠の比にするのはどうだろうか？
- 高野 : それでは、これからの感染状況によって数字が変化してしまう。ざっくりと 2:1 に決めてしまうのはどうか
- 丸田 : 徳力さんの計算式で計算すると、もともとの推薦枠を除くかどうかで数字が変化してくる。場合によっては 4:5 になる。
- 高野 : 女子は元の一枠を除いても数字は変わらない。
- 徳力 : セレの枠を 1 引いて計算するか、引かずに計算するか決めるべきだ。
- 吉岡 : なんとなく 2:1 を決めているので、そこにこだわる必要はない。ただ、すべての推薦枠を参加不参加関係なく自由に与えればいいのか？
- 高野 : 私はセレに出た人がエリートになれるという考えなので、出ていない人に枠が配られるのはいかがかと思う。
- 吉岡 : それならば 5:4 の比率はセレ軽視なのではないか。この状態で諮問委員会に任せるのはどうだろうか？
- 箕浦 : 私は 6:3 がいいと思う。5:4 はセレに参加していない側が優遇されているからだ。

池田 : 5:4 だとセレに参加した人にも、推薦枠が1つ与えられるので、公平だと思う。

谷川 : 私も強いて言えば、池田さんと同じように、5:4 がいいと思う。

張 : 私は京大の者なので 6:3 がいいが、それよりも諮問委員会に任せた方がいいだろう。

徳力 : 私も諮問委員会に決めてもらうのがいいと思う。ただ、委員会が開かれるかどうか分からない。開かれなかった場合を考えよう。

高野 : とりあえず、推薦枠の計算式を確定させたい。小数点の切り上げ切り下げ、元の推薦枠を除くかどうか。これにより枠数が増えたり減ったりするから。ただし、計算式の中で実績枠の人は無視する。ただ、女子の増やす分が0になる可能性がある。それは避けるべきだから小数点を切り上げがいいと考える。もしくは、元の推薦枠を引くか。

箕浦 : 元の枠は除いて、小数点は四捨五入がいいと思う。それが公平だろう。

高野 : 計算式の中で実績枠の人は無視した方が適切だ。

箕浦 : これは諮問委員会で決まらなかった場合の話で正しいだろうか？

高野 : 諮問委員会で決められるとは限らないので、これを利用した方がいいと考えている。ただし、諮問委員会に問題が無いか確認はしてもらう必要がある。ただ、5:4 になる可能性もある。

徳力 : ただ 5:4 になった場合は京京立にも恩恵がある。なぜならその場合、京京立の人が参加できないことになるからだ。

高野 : この式で計算すると、セレの枠よりも推薦の枠が多くなる可能性がある。これは避けるべきだ。そのために注釈でセレの枠が推薦の枠よりも大きくすると入れる。

箕浦 : この計算式は適切ではあると思うが、やはり可能であれば諮問委員会に決めてもらう方が公平だろう。

高野 : 同意だ。諮問委員会に計算式を決めていただき、決まらなかった場合は私達が決めた方法にしよう。

徳力 : この状態ならば、1年生は推薦で実績が少なく不利になるが、それはいいのだろうか？

高野 : やはり、実績は先輩の方が有利ではある。ただ、これ以上推薦枠をどうこうするのは無理がある。

丸田 : 個人的な意見として、四捨五入は疑問に感じる。

高野 : 切り上げにすると、セレの枠が少なくなる可能性がある。

徳力 : 私は推薦枠がセレ枠より多いのはあまり良くないと感じる。

丸田 : (推薦)/(元からある推薦を除いた枠数)の割合が(エントリーしていたがセレ不参加となった人数)/(セレエントリー人数)より小さくなってはいけないと思う。理由はセレクションの参加者は推薦にも参加できる。だが、参加できない人は推薦しかできないからだ。

箕浦 : 私は推薦の枠を増やすと遺恨が増えるような気がする。理由は、男子はセレの順位で決めないと、セレ通過者のボーダーがひしめきあっていて遺恨が残る。

菅 : コロナという非常事態で推薦を考えているが、普通はセレを通過して決められるはずなので、推薦を重視しすぎる前例を作るのはよくないと感じた。

高野 : 話は戻るが、諮問委員会に決めてもらう数字は2:1でいいのだろうか？

徳力 : 根拠がない。だが、議論も煮詰まってきたのでまとめる。

徳力 : 諮問委員会に、当日の人数比を使うのか、ざっくりと2:1で数字を使うかを決め、その中で元の推薦枠を除くかどうか、小数点を切り上げるか四捨五入するかを決めてもらう。すなわち、次の8候補の中から選んでもらう。

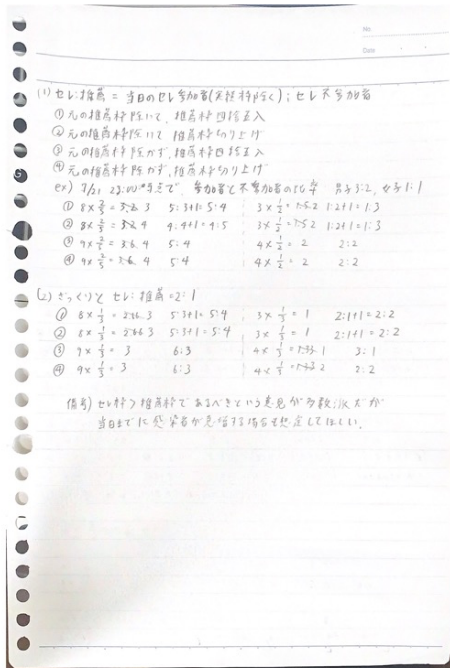
**(1)セレ: 推薦 = 当日のセレ参加者(実績枠は除く): セレ不参加者**

- ①元の推薦枠を除いて、推薦枠四捨五入
- ②元の推薦枠を除いて、推薦枠切り上げ
- ③元の推薦枠を除かず、推薦枠四捨五入
- ④元の推薦枠を除かず、推薦枠切り上げ

**(2)ざっくりとセレ: 推薦 = 2:1**

- ①元の推薦枠を除いて、推薦枠四捨五入
- ②元の推薦枠を除いて、推薦枠切り上げ
- ③元の推薦枠を除かず、推薦枠四捨五入
- ④元の推薦枠を除かず、推薦枠切り上げ

以下参考のための計算メモ



## 追記

7月22日に関西学連総会 15名（うち3名棄権）で投票を実施。(1)①が多数のため、参考として記録。同日に諮問委員会にも同様の投票を実施、また選択理由も述べていただいた。こちらも(1)①が多数。よって、これに決定。